



つくば市役所との留職プログラムでの協業でみえた コレクティブ・インパクト

特定非営利活動法人クロスフィールズ プロジェクトマネージャー 荒井 淳佑

枠を超えて橋をかけ 挑戦に伴走し 社会の未来を切り拓く

私たちクロスフィールズは、「すべての人が『働くこと』を通じて、想い・情熱を実現することのできる世界」、「企業・行政・NPO がパートナーとなり、次々と社会の課題を解決している世界」をビジョンとし、セクター・国境や既存概念といったあらゆる枠を超える挑戦を行う人と組織に伴走していくことで、より良い社会の未来を切り拓いていくことを志としています。

基幹事業である留職プログラム。社会課題の現場を「体感」し、困難な課題に立ち向かうリーダーの活動と



クロスフィールズ集合写真

志から刺激を受ける、管理職・経営者向けの「社会課題体感フィールドスタディ」。社会課題に取り組む社会企業/NPOに寄り添い、国境を越えた橋渡しによって課題解決をサポートする「ソーシャルセクター支援事業」。これら複数の事業を通じ、国内外の社会課題の現場と日本の企業/組織の間に枠を超えた橋を架け、課題解決に貢献しています。

社会課題の現場に ビジネスパーソンが飛び込み、 課題解決に取り組む「留職プログラム」

基幹事業である、留職プログラムは、日本で働く方をアジアの新興国で貧困などの社会課題の解決に取り組んでいるNPOや企業に派遣し、本業で培ったスキルを活用して現地の課題解決に貢献してもらうプログラムです。2011年の創業から2019年3月末までに、日本を代表する大企業約40社に、次世代リーダー育成の研修として導入いただき、180人近いビジネスパーソンを新興国の社会課題の現場に派遣してきました。エンジニア、研究職、営業職、人事・財務などのコーポレート職など、多様な派遣職種で展開中です。

留職プログラムのプロセス

	企画設計	事前研修	現地業務	事後研修
期間	約3ヶ月	1-2ヶ月	2-12ヶ月	1-2ヶ月
場所	日本	日本	現地	日本
実施事項	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の選定 留職先団体と業務内容のマッチング 	<ul style="list-style-type: none"> 3回の事前研修 現地業務の理解 仮説・目標設定 派遣先団体とのビデオ会議 	<ul style="list-style-type: none"> 派遣先団体での業務 1on1セッション 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りと本業への落とし込み 関係者への成果報告

つくば市役所との 留職プログラムでの協業

2018年にはつくば市役所との協業が実現しました。つくば市が掲げる「持続可能都市つくば」の実現に向けてリーダーシップを発揮することができる職員の育成を目的として、留職プログラムが導入され、2人の市職員の派遣が実現しました。これまでは民間企業との協業を重ねてきましたが、自治体との留職プログラムでの協業は初めての取り組みでした。

2人の職員のうち、1人は市役所での障害者支援の業務経験とのマッチングを図り、障害者の雇用支援を行うインドの社会的企業に派遣。各国の障害者雇用政策の比較調査や日系企業との関係拡大業務に従事していただきました。もう1人は、市役所での農業課の業務経験とのマッチングを図り、農村部のコミュニティ開発を支援するインドネシアのNGOに派遣し、日系コミュニティとのコネクション形成やイベント開催などのサポート業務に従事していただきました。

プログラム開始当初は、仕事の取り組み方や言語・価値観など、普段と大きく異なる環境下において、派遣先団体の活動理解や課題整理に精一杯であり、新たな行動を起こすことに躊躇するところも見られました。しかし、



インドに派遣された方と現地メンバーとの打ち合わせの様子



インドネシアに派遣された方と現地メンバーとの打ち合わせの様子

自治体で働く2人は、利他精神を強く持っており、派遣先団体の活動の受益者へのインパクトや公益に根ざした持続的な成果の視点を常に持ちながら、ご自身の業務に取り組み続けた結果、派遣先団体との信頼関係を築きながら現地への大きな貢献に繋げていくことができました。

帰国後の市役所での成果報告会では、現地で社会課題の現場を体感した原体験から、市役所での仕事への使命感もさらに高まり、「リーダーシップを発揮して、市民が『できる』を実現する市役所にしたい」や「市役所で働いていることに自信を持ち、挑戦ができる風土を作りたい」といった今後の意気込みも語られました。五十嵐つくば市長からも「自信を持って推進力を発揮して、ほかの職員にも伝えていってほしい」とコメントをいただくなど、つくば市役所の今後の発展についても、大きな可能性を感じる場となりました。

自治体とクロスフィールズが 創出していく 今後のコレクティブ・インパクト

自治体との初めての協業から見えたことは、これまでのプログラムで重ねてきた民間企業からの参加者によるビジネススキルと掛け合わせた社会課題解決に加えて、市役所職員として培った利他精神や公益を追求する視座も現地貢献のインパクトに繋げるにあたり、大切な要素であるということです。昨今提唱されている、「異なるセクターから集まった、重要なキープレーヤーたちのグループが、特定の社会課題の解決のため、共通のアジェンダに対して行うコミットメント」であるコレクティブ・インパクトというアプローチの一つとして、今後も自治体との連携を積極的に図り、私たちが掲げるビジョンに向けて活動の輪を広げていきたいです。



帰国後の成果報告会後の写真（1段目の2人が留職参加者、2段目左から2番目がクロスフィールズ代表の小沼、3番目が五十嵐つくば市長）